

# コロニー中央病院だより

## 「愛知県療育医療総合センター」(仮称)に転換を予定

### コロニー中央病院再編計画の現状について

中央病院長 飯尾賢治



コロニー全体の再編計画が平成19年3月に策定され、中央病院についてもその中に記載されています。常勤医で診療していた診療科は全て基本的な診療体制として充実し、これに加えて重点化する分野として、周産期医療、遺伝診療、精神発達障害医療そして在宅・地域医療支援の4つについて、平成23年度までを目途に、より一層の充実を図ることとされました。

ところが、計画策定後に当時想定されていなかった深刻な医師不足が全国的に襲い、当院でも退職後の児童精神科医の補充が叶わず、また新生児科医が不在となる事態にまで至りました。

そこで本年度早々から、中央病院将来ビジョン検討会を県で立ち上げ、県内の大学医学部の教授や関連する病院の責任者などの方々により、中央病院のあるべき姿について議論を重ねていただきました。その結果、周産期医療分野においては新生児センターをNICU後方病床へ転換し、他病院の周産期センターに長期入院している重症児を受け入れることとなりました。

また、精神発達障害医療分野では、当院を精神発達障害医療の拠点として整備するとの方向性が打ち出されました。さらに、若手医師の研修システムを構築して、障害児医療の拠点施設を目指すこととされました。これに基づき、担当する医師の確保に向けて尽力がなされているところです。

患者さんやそのご家族からは、中央病院がなくなってしまうのではないかとのご不安やご心配の声が寄せられていると伺っています。確かに名称としては、先の再編計画で「愛知県療育医療総合センター」(仮称)と転換され、中央病院はその中の「医療支援部門」となることが謳われています。しかし、病院はもちろん存続し、現在の診療は継続されますのでご安心ください。また、上述しましたように新たな機能をも担っていくこととされ、さらに大きく発展していくことが期待されます。当院としても県民の皆様のご期待に添えますよう今後も努力いたします所存ですので、よろしくご支援のほどお願いいたします。

#### ■ 中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々により良い医療を提供するように努めます。

- 1 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしく安心できる医療を行います
- 2 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し良質な医療を専門的に提供します
- 3 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します
- 4 成長・発達に影響する病気の原因追究及び、治療法の開発を発達障害研究所やこばと学園と協力して進めます

## ～ 各診療科の現場からの報告 ～

今年度より中央病院の体制が大きく変わりました。そこで、3回シリーズで、当院の診療各科の現場でどんなことをやっているかを、患者さまにもわかりやすく提示しています。最終回は、成人内科、児童精神科、歯科です。

### 児童精神科



#### 知的障害・発達障害児者の診断・治療

コロニー中央病院の児童精神科外来では、言葉の遅れ、多動、自傷、他害、自閉症の疑いがあるとか、集団行動ができない等の心配のある、3歳以上で就学前の幼児の診断を行っています。紹介状（小児科医、保健センター、児童相談センター、保育園の保育士、幼稚園の先生から等いずれか1通でよいです。）が必要です。

現在は、定期的に再来で経過をみたり、家族のご相談に応じることはできかねています。しかし、受給者証や特別児童扶養手当認定診断書が必要な方については再来で応じています。感覚統合訓練を希望される就学前の幼児については別枠で受け付けています。母子短期療育施設緑の家の病院受診コースの診察も行っています。問題行動などのため投薬を受けてこられた方は引き続き再来を受診してもらっています。ただし、夜間や土日、祝日の緊急対応については現在行っていません。

これまでに児童精神科を受診したことがある患者さんが意見書、年金診断書等の作成を希望される場合はできる限り受けていますが、すぐには応じられずしばらく待つていただくことがあります。もし、他の病院等で作成してもらえようでしたら、そちらでの作成をお勧めしています。

外来では問題行動の治療や検査ができない患者さんや、内科、外科、整形外科などの治療が必要ではあるが問題行動があり、一般病棟では治療ができない患者さんについては、精神科病棟での入院治療も受けています。精神科病棟は鍵をかける閉鎖病棟なので、特別な入院（医療保護入院）

となります。未成年の患者さんの場合は御両親の同意が、成年の場合は成年後見人か、家庭裁判所で選任された保護者の同意が必要です。自閉症児・者の短期介護も精神科病棟で受けています。ご希望の方は指導相談部を介して申し込んでください。患者さんの状態や病室の空き具合でご希望どおりには応じられない時もあります。常勤精神科医が1人の状況なので、診療内容が制限されています。ご理解のほどお願いします。

スタッフは、常勤医師：吉村育子（写真）  
非常勤医師：1名

### 成人内科



#### 生活習慣病などに対する障害特性に応じた医療の提供と一般医療機関への橋渡し

40年前の当院開設時から小児科領域を主体とした病院として展開してきた中央病院ですが、成人内科部門は中央病院に1名、こぼと学園および発達障害研究所に各1名（病院兼任）の内科医が対応しています。

対象患者は遺伝子異常による先天性疾患、自閉症をはじめとする精神発達障害者など、一般病院の内科で扱う患者とは大きく異なり、基礎疾患による診断・治療の際の困難さを如何に克服するかが勝負どころです。当内科の業務内容は、外来診療、入院診療を通じての一般内科診療で、特に専門領域にはこだわってはいません。コロニー内外の成人知的障害者施設からの診療依頼に対してはまずは受診していただいた後にその患者さんの障

害特性に応じた医療を一般病院との連携も含め、保護者の方々とともに考えて進めてまいります。外来診療では、重度知的障害のある自閉症の方で高度肥満や糖尿病、高尿酸血症、高血圧症などの生活習慣病を合併した患者の受診が増加しています。また、プラダ・ヴィリ症候群、ダウン症候群、結節性硬化症、ディ・ジョージ症候群などの先天異常を有する成人の方も多数受け付けています。専門的な医療を要する場合は、家族と相談して適宜、地域の総合病院へ紹介申し上げたり、一方では日常の「かかりつけ医」との連携を深めるといった「橋渡しのな」役割も担っています。

予防医学的な観点からは、各施設の利用者などに対するインフルエンザ予防接種や、健康診断業務も当科が主として担当しています。中には大人4人がかりで「やっとの思いで」0.5mlのワクチン皮下接種完了といった例も稀ではありません。入院診療では、BMIが40%を超える様な肥満症や糖尿病・高血圧症を有し家庭では対応できない様なケース、急性肺炎、急性胃腸炎、脱水、腎不全、水中毒などの症例があります。特に、知的障害を伴う重度の肥満症で、コントロール不良の糖尿病、高血圧症、脂質代謝異常、脂肪肝、睡眠時無呼吸症候群などを有し、原疾患のコントロールが困難な場合、減量目的の入院治療が児童精神科医師との協力で実施されています。減量入院においては単に食事制限のみの治療では基礎代謝の低下を招き、長期的にはリバウンドしやすいと考えられるので、棟内歩行や病院外の散歩、病棟内の乗馬型運動器具やエアロバイクなどを適宜活用した運動療法の併用を重視し効果を挙げています。

スタッフは常勤医師1名：吉田 太 (写真)、  
非常勤：小森 拓(こぼと学園、コロニー内施設兼任医師)、千葉陽一(発達障害研究所)

## 歯 科

### 障害の特性に応じ工夫して診療 口腔ケアも積極的対応

中央病院歯科では、知的障害、ダウン症、自閉症、てんかん、脳性まひ、現在筋ジストロフィー、その他の障害がある方々の、むし歯や歯周病などの歯科疾患の治療をはじめとし、あらゆる口腔疾患や口腔機能障害に対応しています。

当科の受診者は、知的障害や自閉症などでは、歯科治療への不安や恐怖で歯科診察室に入れない



診療台に座れない、口を開けない方、また身体的な障害により不随意運動でじっとできない、緊張で開口できないなどの困難を伴う方、重症心身障害などで治療時のリスクが高い方々などが、毎月実患者数として約500名受診されています。これらの患者さんは、地域の歯科医院では困難が多く、受診できる場が少ないため、尾張部はもとより県下全域、岐阜県東濃地区からも通院されています。こうした方には、じっくりと時間をかけ、段階的に克服していく行動療法や、TEACCH法を用いるなど、できる限り治療に慣れるような対応を心がけています。

また身体障害者には歯科診療を行う際に、可能な限りリラクゼーションできるよう診療台上に工夫した用具を組み合わせたり、緊張の出にくい姿勢などに配慮しています。また、最近では重症心身障害者や医療的ケアを受けている方が増加していますが、診療中の呼吸をモニターしたり誤嚥を防止する対策を行いながら細心の注意を払いながら歯科診療を行っています。

近年、嚥下障害の方では、誤嚥性肺炎の原因に口腔内の細菌の関与が大きいことが判明し、その予防として口腔ケアの重要性が認識されています。そこで、当科では歯科衛生士による専門的口腔ケアについて、外来、入院患者を問わず、個別の障害に応じた指導や相談を行っています。また食べる・飲み込むことに関する診査や指導、特に口腔機能障害に関して対応しています。必要な場合には舌の働きを助ける口腔内装具なども作成していますのでご相談ください。

現在、歯痛など急性症状のある初診の方においては、地域で診療が難しい場合は、すぐにでも診療できるようにしていますが、いったんは近くの医院に受診して不可能なときは紹介状を持参して下さい。定期的な健診などの方は2-3ヶ月先の予約になります。

スタッフは常勤歯科医師2名：石黒光 (写真左)、加藤篤 (写真右)

## スタッフ紹介



作業療法士 小松則登



作業療法士免許取得後、愛知県立第一青い鳥学園（現：青い鳥医療福祉センター）に入職し、ちょうど臨床5年（平成7年頃）が過ぎた頃、当時の副院長の夏目先生のお誘いでコロニー生活が始まりました。今でこそ「発達障害」という言葉は浸透していますが、当時はそのような言葉もなく、行動・学習・コミュニケーションに困り度がある方に「感覚統合療法」を展開してきました。

発達領域の作業療法は様々なお子さんに対し、幅広いアプローチを展開するところが特徴ですが、当院ではその力が今ひとつ発揮できていない、というのが私たちの現状のように思います。（もっとがんばらねば！）私個人としては昨年度、大学院を修了し、新生児への作業療法とその予後予測に関する内容の論文を書きました。残念ですが当院のNICUは閉鎖になりましたが、早期介入の重要性をまとめる機会となり、出来る限り早くお子さんに関わる事をOTとしてやっていきたいと考えていたところでした。

まだコロニーでの経験は浅いのですが、数年前より整形外科医と行っている「リハビリ診察」は当院ハビリにとっては大きな出来事だったと思います。子どものリハビリは大人のリハビリとは異なり、総合的なプログラムの元で開始されるものだと思います。多くのお子さまにお越しいただいている業務の中で、この仕組みができたことはOTにとっても、患者さまにも良かったのではないかと思います。子どもの発達には部分では語ることはできませんのでさらに総合診療部ハビリテーション室という看板通りに、「総合診療」ができるハビリになればいいと思っています。

## ～問診票～

- 出身地はどこですか？  
兵庫県明石市です。
- コロニー在籍何年ですか？  
15年が過ぎたところです。作業療法士としては21年目ですね。
- 趣味は？  
趣味はフライフィッシングです。溪流に行くのは年々減っていますが、毎日ひとつは毛バリを巻きながら生活しています。
- 猫と犬どっちが好きですか？  
生き方は猫が好きです。でも今は「鳥脳」に興味があります。
- マイブームは？  
鳥の脳みそ。基底核中心だと思っていたら間違っていて、最近は鳥を見たら謝っています。「鳥脳力」という本がとても楽しいです。
- 最近、気になるニュースは？  
鳥が恐竜から進化したことを知りました。
- コロニーで好きな所は？  
機能訓練センター前の駐車場の「塵・・・」の渋いフォントの立札。



写真上段左から「嚥下に対する外科的治療」新美医師、「ボトックス治療の障害児者への応用」伊藤医師、「医療的ケアを要する子の口腔ケア」石黒歯科医師、「人工呼吸器の基礎」亀井臨床工学士、下段左「呼吸器をつけた娘との生活一家族の思い」保護者の講演がありました。座長は丸山医師（下段中央）が務めました。

## 第7回 在宅医療講演会 開催

### 200 余名が 熱心に聴講

昨年12月5日、第7回在宅医療講演会が県立看護大学で開催され、206名の参加者がありました。今回は左記の4名の講師と、患者さんのご家族の話があり、活発な質疑が行われました。参加者の職種では、在宅で活躍する看護師などが101名と最も多く、次いで養護学校教員24名、PT16名、介護職、歯科衛生士と続きました。中には、富山県など県外からの参加者もありました。終了後のアンケートでは、各講演とも「役立った」「内容の難易度も丁度よかった」が90%以上あり、「日頃かかわっていることを聞いて大変、勉強になった」「とても良い内容なので年2回開いてほしい」などの要望もありました。